

高校無償化と、公立高校入試併願制を考える

— 高校教育の質的向上の大チャンス —

開倫塾

塾長 林 明夫

Q：日本でも、高校無償化と、公立高校併願制が始まるようですね。

A：(1)はい。遅ればせながら、高校教育の無償化は 2026 年度から、公立高校入試併願制は都道府県教育委員会の判断で、いつからでも OK となったのは、快挙と考えます。

(2)この 2 つの制度導入で、公立高校も、私立高校も、これからは、一段と教育内容が問われる、激しい大競争時代に入ることだけは、確実です。

(3)特に、公立高校入試の併願制が始まると、入試前日まで、公立高校の受験生は、第一志望校合格のため、志望校の変更なく、全力を傾注して受験勉強に没頭すると思われまますので、公立高校受験生の平均学力は、一気に上昇すると思われまます。大幅にレベルアップする公立高校の新入生の期待に沿える高校教育ができるかが、すべての公立高校の課題となります。

Q：え、公立高校入試併願制の実施は、すべての公立高校受験生の基礎学力アップに役立つのですか。なぜですか。

A：(1)現在の学力はともかく、公立高校がよければ、滑り止めの私立高校受験や、志望校変更の必要なく、第一志望の公立高校合格を目指して、一心不乱に受験前日まで受験勉強に全精力を傾注するのが、公立高校入試の併願制です。

(2)入試前日まで一心不乱に学び続けますので、公立高校入試併願制で合格した高校生の学力は、驚くほど上昇することは確実です。

(3)そして、そのように高校入試前日まで一心不乱に勉強した高校生は、高校卒業後、6 割以上は 4 年制大学に、3 割は短期大学・専門学校・専修学校に進学します。(つまり、高校卒業生の約 9 割は、大学・短期大学・専門学校・専修学校など高等教育機関に進学します)

*最大の課題は、このように公立高校入試併願制で、入試前日まで一心不乱に学び続けて入学し、また、卒業後に約 9 割が高等教育機関に進学する高校生に対して、「高等教育機関での教育や研究に耐えられるだけの基礎学力」や「効果の上がる学習方法」、「学び方を学ぶ力」を、現代の高校では育成できるのかです。

Q：話を元に戻します。第一志望校合格一本で入試前日まで受験勉強できるのが、公立高校入試併願制なのですね。内申書はどうなるのですか。

A：中学 3 年時の学校成績（定期試験や提出物で評価される）が明記される東京都などを除き、多くの道府県では、中学 1 年生から中学 3 年生の 12 月頃までに行われる「定期試験」や出席状況、様々な特記事項などを参考に書かれる内申書は、従来通り、公立高校入試併願制でも用いられるようです。

Q：公立高校入試併願制で、学習塾や予備校での受験指導は変わりますか。

A：(1)滑り止めの私立高校受験が激減し、公立高校のやさしい高校への志望校変更がなくなります。

(2)その代わりに、第一志望の合格者に入れなくても、第二、第三希望への合格が、アルゴリズムで自動的に決まるのが、公立高校入試併願制です。ですから、公立高校受験生は、最後の最後まで、各学習塾・予備校での受験勉強を最大化します。

(3)学習塾・予備校側では、受験数か月前から受験前日まで、どれだけ熱心に効果の上がる受験指導ができるか、今から準備をすることが望まれます。カリキュラムや教材、時間講師の先生をどれだけ用意できるかで、その学習塾や予備校の命運が決まるといえます。

Q：学習塾・予備校・私立学校の経営者幹部の皆様にお伝えしたいことは何ですか。

A：(1)学習塾・予備校では、この需要をビジネスチャンスととらえ、カリキュラム化し、指導方法、テキストや教材、時間講師の先生方を確保できれば、塾生増や売り上げアップにつなげることができます。

(2)公立高校入試併願制の導入の時期や方法は、各都道府県教育委員会の裁量にゆだねられておりますので、数年はかかるとおもわれます。

(3)大いに情報収集や意見交換を行いながら、様々な準備をしまりましょう。

○公立高校も、私立高校も、「高校受験生や保護者を、その文化、伝統、新たな取り組みで引きつけ、魅了する高校づくり」を行う以外ありません。

○大学などでの教育や研究に耐えられる、魅力あるカリキュラム作りは、必須と考えます。

Q：最後に一言どうぞ。

A：今月も、お読みになれば必ずお役に立つと確信する本を何冊かご紹介させていただきます。

(1)一冊目は、フィリップ・コトラー先生の最新作「コトラーの起業家的マーケティング、伝統的手法から脱して、創造性とリーダーシップ重視型アプローチへ」朝日新聞出版、2025年4月30日刊です。「2024年の年間出生数68万人」「公立高校併願制」「高校教育無償化」「2026年から、休日のクラブ活動、民間へ全面移管。2031年度までに、平日のクラブ活動も、原則民間移管」など、教育をめぐる環境や制度が劇的に変化する現在、学習塾・予備校・私立学校の経営幹部が学ぶべき「マーケティング手法とは何か。マーケティングの世界的大家、コトラー先生の最新作を、ていねいに何回も読み、考え方の枠、フレームワークを身に着けましょう。

(2)二冊目は、中川八洋・渡部昇一著「教育を救う保守の哲学」徳間書店、2003年3月31日刊です。私も、中学校・高校時代に身に着けるべき躰(しつけ)教育は、「美しい立ち居振る舞い」「美しい言葉遣い(敬語表現を含む言葉遣い)」「元気なあいさつ、あいさつはこちらからする」等、ごく基本的なことと考え、本書を参考に、学校での出張授業でお話しています。

(3)三冊目は、今月のシェイクスピアは、ラム作「シェイクスピア物語」岩波少年文庫、岩波書店、2001年9月18日刊です。シェイクスピアの11の代表作のあらすじをわかりやすくまとめた作品。Charles and Mary Lamb著「Tales From Shakespeare」Penguin Classics文庫の翻訳です。この英語の原文は、子どもたちへの読み聞かせ用の本でもありますので、できれば、英語の原文を、ゆっくりと、声を出してお読みいただければ、素晴らしい勉強になると確信します。

(4)四冊目は、新井潤美著「パブリック・スクール、イギリス的紳士・淑女のつくられかた」岩

波新書、岩波書店、2016年11月19日刊です。二冊目の渡部昇一先生のご著書と相通じるものが多々あるような気がします。

(5)宮永孝著「仮面の奇人、三木清」法政大学出版局、2025年3月19日刊です。戦前の思想家、和辻哲郎、三木清のお二人の作品を折に触れ読ませていただいておりますが、本書を読み、三木清の実像がよくわかり有難かったです。

(6)六冊目は、高橋博之著「関係人口、都市と地方を同時並行で生きる」光文社新書、光文社、2025年3月30日刊です。地方創生の肝は、2か所・3か所居住の人口をいかに増やすかにかかります。

○あのロシアが、何があっても食糧不足にならないのは、街に住む多くの人々が、「ダーチャ」と呼ばれる「別荘」を郊外に持ち、週末、1～2時間かけ、郊外の「ダーチャ」に出かけ、農作業、野菜や穀物をつくっているからだといわれています。

○本書を読み、余り無理のない範囲で、2か所居住、3か所居住に挑戦、地域創生に、少しずつでもご参加ください。少し慣れてきたら、老後は、気に入った地方に移住。介護施設の利用について、一言。地方では、ていねいで親切な介護サービスが、都会よりも安い費用で受けられるような気がします。墓地は都会よりも地方の方が、安価のようです。ご検討を。

(7)七冊目は、猿橋勝子著「学ぶこと、生きることー女性として考えるー」中公文庫、中央公論新社 2023年7月25日刊。「死の灰」を正確に分析、放射能汚染の実態についてアメリカの誤りを正し、核兵器の危険性を世界に知らしめた地球科学者で、「猿橋賞」の創設者として知られる、女性科学者の草分け的存在である著者の自伝的エッセイ。学ぶことのすばらしさと、女性の自立を訴える名著。是非、皆様におすすめてください。

2025年4月25日記

<プロフィール>

開倫塾塾長、開倫塾日本語学校校長

開倫ユネスコ協会会長

学校法人有朋学院有朋高等学院理事長（福島市）

宇都宮大学大学院工学研究科客員教授、作新学院大学客員教授、

公益財団法人文字・活字文化推進機構評議員

社会福祉法人両崖福祉会特別養護老人ホーム清明苑監事（足利市）